

西仲町の 子育て稲荷

昭和六十年九月五日号

中央三丁目（西仲町）の大運寺に子育て稲荷があります。

ここに祭られているのは、京都の伏見稲荷の使いの狐で、伏見稲荷からもってきたという金のはしが今でもあります。

病気の子供をもった親が、このお稲荷さんへお参りするとたちまち病気が治ると伝えられています。



伏見稲荷の使いの狐

昔、大運寺のお坊さんの枕もとへ毎晩のようであられる一匹の狐がおりました。そして「和尚さま起きてください。私をお稲荷さんに祭ってください」と言います。和尚さんはどこから、どういうわけできたのか聞きませんでした。「私は京都の伏見稲荷の使いです。」東国に病がはやり、子供が育たなくて困っているところがあるので、お前はそこへ行つて子供を守つてやりなさい」と言われてきました」と答えました。和尚さんは狐は人間をだますのが上手なので、伏見稲荷の使いだという証

拠があるのか尋ねると、狐は金のはしを見せました。

さっそく伏見稻荷へ問い合わせしてみると、だしかに金のはしが一ぜんなくなっているということでした。

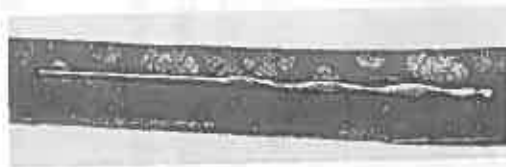
そこで和尚さんは、境内へほころをつくり、子育て稻荷大明神として祭りしました。その後、吉原では、はやり病で子供が死ななくなつたそうです。

夜泣きに「利益

大運寺住職 富田生久さん

大運寺の住職富田生久さんは、「年寄りが孫を連れてくるようです。県内各地から参拝者があり、子供が夜泣きをしたときにお参りするとすぐ治ると言われています。」

お参りしているところを人に見られてはいけないと言われていたようで、気がつくとお揚げが上げられています」と話してくれました。



狐が伏見稻荷からもってきたという金のはし